特集 海外大学進学

～海外生・帰国生必見！日本人のための海外大学進学～

第6回 オーストラリア編

アメリカ、イギリス、カナダに続き、今回は南半球の教育大国「オーストラリア」をご紹介します。世界に高く評価される研究水準と、多様性を尊重する開かれた環境に惹かれ、各国から意欲ある留学生が集まっています。学位の取得だけでなく、実社会につながる学びとグローバルなキャリアへの確かな道筋があることも魅力です。将来の人生設計を広い視野で考えるための選択肢として、ぜひご一読ください。

第1回入門編 はこちら



取材協力：Australian International School（シンガポール）
iaeグローバルジャパン株式会社（シドニー大学公式留学エージェント）
ワイエー留学

なぜ、オーストラリアの大学なのか

オーストラリアの魅力は、アジア諸国をはじめ世界各国から多くの留学生が集まり、比較的治安が良い環境のもと、多様な価値観に触れながら学べることです。また、卒業後の就職や永住権の取得など、将来の選択肢についても視野にいれることができます。



- **世界トップクラスの教育水準**
「Group of Eight（オーストラリア主要8大学）」をはじめ、世界大学ランキングの上位100校にランクインする大学が複数あり、質の高い教育を受けられる。
- **学士課程は基本3年間**
日本やアメリカの4年制大学とは異なり、イギリスと同様に入学直後から専門科目を集中的に学ぶ。多くの学部が3年間で卒業できるため、学費・生活費を抑えられる。
- **大学の公式出願窓口（エージェント）を通じた出願が可能**
留学生の大半がエージェント経由での出願。書類の不備などを未然に防ぎスムーズに出願を進めやすい。
- **透明性が高い合格基準**
成績および英語力の合否基準が明確で、出願前から合否を予測しやすい。
- **柔軟な入学時期**
主に2月および7月に入学する。各国の高校卒業時期に合わせて入学時期を選びやすい。
- **学生ビザでも就労（アルバイト）が可能**
学生ビザでも、学期中は就労時間の上限内でアルバイトができ、大学の休暇期間中は原則として時間制限なく働くことができる。
- **卒業後の就労ビザ制度（卒業生ビザ）が充実**
一定の条件を満たせば、卒業後に就労可能なビザを申請でき、将来的に永住権を目指すことが可能。

※ビザやアルバイト・就労に関する最新情報は、必ず関係各所に確認してください。

- **日本との時差が少ない**
時差が0～2時間程度で、日本との連絡が取りやすく、オンラインでの就職活動や面接も進めやすい。

国・公立大学

国内には40校以上の大学があり、そのほとんどが州立・公立大学です。留学生を保護する法律なども国レベルで整備されており、大学教育の質が高い水準で保証されています。

世界大学ランキング2027 はこちら QS THE

オーストラリアの主な大学

世界大学ランキング100位以内（THE、QS）
※「第1回入門編」より抜粋。



オーストラリアが世界に誇る「Group of 8」

オーストラリアを代表する研究・教育水準の高い8大学は、「グループ・オブ・エイト（Group of 8）」と呼ばれ、アメリカのアイビーリーグやイギリスのラッセルグループに相当する存在です。この8大学は、国内の研究助成金や産業界からの研究資金の約7割を獲得しており、論文の引用数や研究の影響力でも国内外で高い存在感を示しています。

オーストラリア国立大学（ANU）	キャンベラ	オーストラリア唯一の国立大学。歴代ノーベル賞受賞者を多数輩出。政治学や公共政策、国際関係学など。
メルボルン大学	メルボルン	大学ランキングで国内のトップを争う名門。2番目に古い。医学、法学、ビジネス、教育など。
シドニー大学	シドニー	オーストラリア最古の大学。政財界のリーダが多い。就職ランキング上位。医学や法学など。
ニューサウスウェールズ大学（UNSW）	シドニー	起業家精神や産業界との提携が有名。エンジニアリングやテクノロジー、ビジネスなど。
クイーンズランド大学（UQ）	ブリスベン	科学・バイオテクノロジー・医学・環境学分野の研究実績。医学やバイオ、環境学、農学、海洋生物学など。
モナシュ大学	メルボルン	オーストラリア最大級の大学。マレーシアなど海外キャンパスも展開。薬学・薬理学、教育学など。
西オーストラリア大学（UWA）	パース	ノーベル生理学・医学賞受賞者も輩出。地質学、資源エネルギー、海洋学、医学など。
アデレード大学	アデレード	歴史ある名門校で、ノーベル賞受賞者を輩出。歯科、航空宇宙工学、農学、ワイン醸造学など。



シドニー大学
（画像提供：iaeグローバルジャパン）



クイーンズランド大学 セントルシア・キャンパス
（画像提供：ワイエー留学）

出願書類・資格

オーストラリアの大学では、イギリスと同様に3年間で学部を修了します。日本の高校を卒業した場合には多くの場合、大学進学準備コース（ファウンデーションコース）を経て大学に出願します。各大学のサイトには、必要な成績や英語資格試験のスコアが公表されているので、事前に確認しましょう。

- オーストラリアの現地校で取得するATARのほか、国際バカロレア（IB）、国際A-Lelvels、アメリカの高校卒業資格とAPなど。

ATAR（Australian Tertiary Admission Rank）とは
ATARは、各州・準州の高校最終学年（Year 12）の成績に基づいて算出される。ニューサウスウェールズ州ではHSC（Higher School Certificate）、ビクトリア州ではVCE（Victorian Certificate of Education）など、州ごとの教育課程の修了試験結果。大学の合否判定基準において最も重要な指標。各大学が最低合格ラインを設定している。

- 多様な進学ルート：
  オーストラリアの高校卒業資格、国際バカロレアや国際Aレベル、アメリカの高校卒業資格とAPなどから直接出願可能。日本の高校を卒業した場合も、英語力や成績が入学基準に届いていなければ、大学進学準備コース（ファウンデーションコース）などを経て大学に進学することが可能。
- 英語スコア：
  一般的にはIELTSを採用。明確な最低基準が大学のサイトで公表されている。TOEFL iBTの場合、オーストラリア用の「TOEFL for Australia」が必要。
- 志望動機書（エッセイ）などが不要：
  奨学金の申請や、医学部などを除き、エッセイや推薦状、課外活動などの提出が求められないケースが多い。

出願・合格までの一般的なスケジュール

出願の年間タイムライン

オーストラリアの場合、2月入学と7月入学があります。以下は2月入学のケースをご紹介します。

入学1年前（2〜4月）（翌2月入学の場合）

- 志望大学と学部の選定
- 大学出願窓口のエージェントへ相談
- 英語資格試験を受験、スコアを把握、目標スコアの対策

6〜8月ごろ

- 出願提出
- 条件付き合格
- 英語資格試験スコア提出

10〜12月以降

- 合格後の手続き
- ビザ申請

オーストラリアの大学は、一斉に合否判定が出るのではなく、出願をした順番に合否が確定する「ローリング方式」です。合否結果を長期間待つ必要がないため、準備が出来次第出願を開始しましょう。

奨学金など

多くのオーストラリアの大学では、出願時に学業成績に基づく授業料の一部免除の審査が自動的に行われます。一方、高額な奨学金や、授業料全額免除などについては、別途の申請や志望理由書の提出が必要です。

また、日本をはじめとするアジア諸国の留学生を対象にした奨学金制度もあります。大学によっては入学審査と同時に奨学金の対象となるか審査されることもあります。

日本の奨学金も活用しよう

- JASSO
- トビタテ留学ジャパンなど

第5回奨学金編はこちら

実際に高校では、大学進学に向けてどのような取り組みをしているのでしょうか。

進路指導の先生に聞きました。



Australian International School（シンガポール）
Head of Careers **Tamana Chanrai-Hills** 先生

■ 高校3年間の過ごし方

学業と人格の両面で大きく成長できる高校時代には、「挑戦すること」を心がけてください。自分の強みや関心を理解し、その分野で自分の可能性を最大限に広げるように努めましょう。

大学での専攻分野だけでなく、大学の環境や卒業後にどのようなライフスタイルを希望しているかを親子で話し合うことが大切です。進学の目的や将来の方向性を明確にすることで、大学選びや出願に向けた準備も具体的に進めやすくなります。

- 学習環境：
  少人数制のクラスがある小規模な大学か、多様な学部や研究分野を持つ大規模な総合大学か。
- キャンパスの立地：
  伝統ある独立したキャンパスか、大都市の中に位置する都市型キャンパスか。
- 実践的な学び：
  産業界との連携やインターンシップ、ビジネスと学業を組み合わせたプログラムなどが充実しているか。
- 将来の進路：
  卒業後は就職を希望するのか、大学院への進学を考えているのか。

■ 奨学金について

オーストラリアの大学では、学業成績優秀者を対象としたものや経済的支援を目的としたものをはじめ、学部独自の奨学金、グローバル・リーダーシップ・プログラム、スポーツ分野で優れた実績を持つ学生を対象としたものなど、多彩な奨学金制度が設けられています。入学要件や締切日は大学によって大きく異なるため、早期からのリサーチと審査基準をもとにした計画的な準備が不可欠です。

■ オーストラリアの大学を志望する生徒とご家族へのアドバイス

進学準備をスムーズに進めるためには、将来へのビジョンを親子で話し合い明確な目標を作ることが大切です。



オーストラリアの大学の多くは、2月に学期が始まり、11月に終了します。本校はオーストラリアの学校暦を採用しているため、現地の大学に出願しやすいですが、5・6月に卒業する北半球カレンダーの高校に通っている場合には、出願・入学時期に注意しましょう。

本校のキャリア・カウンセラーは、生徒の皆さんと密接に連携しながら、各大学の入学要件、ATAR（オーストラリアの大学入学選考で用いられる学力指標）の換算方法を確認しながら、オーストラリア各州の出願ポータルや大学独自の出願システムを活用して、出願スケジュールを一貫して管理しています。進学先の選定から出願まで、学校の進路指導の先生と積極的に相談しながら、一つひとつ着実に準備を進めていきましょう。

オーストラリア留学の担当者に聞きました。



ワイエー留学
Director **渥味 涼子**氏

■ 高校時代にできること

大学進学はゴールではなく、将来への一歩です。自分の興味や適性を知り、卒業後の仕事や生活も見据えて、自分に合う進路を見つけましょう。

- 「好き」と「得意」を見つけよう
  将来の目標が定まっていなくても焦らず、さまざまな科目で得意分野や興味を探しましょう。読書や課外活動、職業体験も新たな可能性を知る機会です。
- 多様な大人や周囲の人と話そう
  異なる経験や価値観は、思いがけない職業や進路との出会いにつながります。同年代との交流だけでは視野は広がりません。家族や周囲の人と仕事について話してみましょう。多くの可能性を知ることで、納得できる進路選択ができるでしょう。
- 英語力と成績を着実に伸ばそう
  海外生・帰国生でも、英語力のスコアが伸び悩むケースは少なくありません。早めにIELTSなどを受験し、スコア向上を目指しましょう。また、理数系科目の履修など、志望学部の入学条件を確認し、計画的に準備しましょう。
  ※Group of 8などでは6.5～7.5程度、詳細は各大学・学部でご確認ください。
- 大学ごとに異なる奨学金の条件を早めに調べよう

■ 卒業後の就職や永住権も視野に

オーストラリアでは、大学卒業後に永住権取得への道が開かれます※。進路選択では、大学の学びだけでなく、卒業後にオーストラリアで就職する可能性や永住権についても検討すると良いでしょう。

世界的にビザ発給の厳格化が話題となっています。オーストラリアも同様ですが、18歳以下の留学生や真摯に大学進学を目指す学生にとっては、必ずしも過度に悲観する状況ではありません。正式な資格を持つ移民法の専門家と適切な準備がを進めることが大切です。※政府の技能職業リストなどに基づく条件を満たす場合。

■ 具体的な大学生活も想像しよう

多くの大学生は、学生寮や学生向けアパート、シェアハウスなどで自立した留学生活を送ります。学生ビザでのアルバイト※は原則、授業期間中は2週間で48時間まで、大学所定の休暇中は時間制限がありません。学業と両立することができれば、生活費を補うだけでなく、英語力や社会経験を得る機会にもなります。将来希望する業界でのアルバイトやインターンシップもすることで、学業で得た知識を仕事に生かし、卒業後の就職活動にも役立つでしょう。


オーストラリアの高校

※全国最低賃金は2026年7月時点で時給26.44豪ドル。実際の時給は年齢・職種・雇用形態などで異なる。

■ オーストラリアの大学を志望する生徒とご家族へのアドバイス

オーストラリアの大学には多様な学問分野や進学ルートがあり、目標への道は一つではありません。大学での学びや生活、卒業後の仕事を見据え、自分らしい未来につながる進路を見つけてほしいと思います。

オーストラリアの大学の魅力を聞きました。

シドニー大学公式留学エージェントに取材しました。



シドニー大学公式留学エージェント
iaeグローバルジャパン株式会社（留学ネット）
留学カウンセラー **國府 恵子**氏

Q オーストラリアで学ぶ魅力を教えてください。

A オーストラリアの大学に進学する魅力は、世界水準の教育を受けられることに加え、多文化社会で国際感覚を養い、自分の可能性を広げられることです。多くの大学が国立大学のため、国の制度に基づく厳格な質保証のもとで運営されており、高い教育水準が維持されています。

なかでもシドニー大学は、QS世界大学ランキング2027で世界28位にランクインした、オーストラリアを代表する名門大学です。幅広い専攻分野と充実した研究環境を備えています。また、大学があるシドニーは南半球最大の国際商業都市です。世界中から人々や企業が集まる環境で多様な価値観に触れる経験は、高い英語力や主体性を育み、将来のグローバルキャリアの強みとなるでしょう。

Q 新入生・留学生へのサポート体制は

A シドニー大学では、学習支援、健康・メンタルヘルス相談、キャリア支援、住居探しなど、幅広くサポートする体制が整っています。新入生向けプログラムや先輩学生と交流できるピア・メンタリングの機会もあり、留学生が安心して大学生活を始められるよう支援しています。

また、日本人学生を対象に、授業料が20%免除される奨学金制度を設けています。留学にかかる経済的負担を軽減できる点も大きな魅力です。

高校卒業後に直接入学の条件を満たさない場合は、Taylors College Sydneyが提供する「University of Sydney Foundation Program」を利用する方法もあります。大学で必要な英語力やアカデミックスキルを身につけ、所定の条件を満たすことでシドニー大学への進学を目指すことができます。

Q 日本人の高校生・ご家族へのメッセージ



A 海外大学進学はハードルが高く感じられるかもしれませんが、オーストラリアには「進学準備コース」や「英語コース」など、個々の学力や英語力に応じた進学ルートが整っています。また、世界150ヵ国以上から集まる留学生との出会いや国境を越えたネットワークは、将来にわたるかけがえのない財産になるはずです。

海外進学は学位取得にとどまらず、自立心を育み自身の可能性を広げる貴重な機会です。ぜひ早い段階から情報収集を始め、ご本人の目標やご家族の希望に合った進学プランを見つけてください。

オーストラリアで学ぶ日本人学生に聞きました

クイーンズランド大学 卒業



English as an International Language および Media and Digital Cultures 専攻
Ichika さん

日本の公立小・中学校、私立高校を経て、
オーストラリア・ブリスベンIES CollegeのFoundation Year Program（大学進学準備コース）を卒業

将来のキャリアや人生の選択肢を広げたいと考えたことが、海外大学を目指すきっかけでした。進学先としてオーストラリアを選んだ理由は、大学の学士課程が3年間であることや、気候・地理的に住みやすそうな環境に惹かれたからです。

日本の高校で学んでいない科目を補うため、オーストラリアの大学準備コース（ファンデーションコース）を経由して大学へ進学するルートを選びました。ファンデーションコースに進学するために、IELTS 5.0以上のスコアと高校3年間の成績を上げるよう努力しました。

2019年	自分で調べるだけでは限界を感じ、留学エージェントや海外留学予備校に複数相談。希望・適性を理解し、オーストラリアへの進学を決意。 11月：IELTS受験　12月：ファンデーションコース出願
2020年	1月：ファンデーションコース合格（コロナによりコース延期） 3月：日本の高校卒業
2021年	1月：ファンデーションイヤープログラム（大学進学準備コース）に進学 （当初はコロナのためオンライン授業）
2022年	3月：オーストラリアへ渡航、対面授業 6月：ファンデーションコース卒業、大学出願・合格 7月：クイーンズランド大学入学

■ オーストラリアの大学を選んだ理由

大学選びでは、立地や環境に加え、興味があり将来の仕事につながりそうな専攻を重視しました。大学の授業では、SNSで架空のビジネスを運営する実践的なグループワークや、数多くのプレゼンテーションを通じて、自分の意見を伝える力を養うことができたと思います。卒業後は、専攻に関連するメディアやグローバル・マーケティングの分野で経験を積み、スキルを磨きたいと考えています。

■ 海外大学を目指す中高生へのアドバイス

なぜその国で学びたいのか、何を学び、何を得たいのかが明確であれば、留学中もモチベーションを保ちやすいと思います。留学の準備には想像以上に時間がかかります。オーストラリアの大学に興味を持ったらすぐに情報収集を始め、できることから準備しましょう。

大学では英語力や学力に加え、集中力、継続力、精神力も大切だと実感しました。初めて暮らす国では、わからないことをそのままにせず、人に助けを求めることも大切なライフスキルだと思います。力を貸してくれる人は必ずいるので、勇気を出して一歩を踏み出してください。

次回は「シンガポール編」です。
どうぞお楽しみに。

あわせて
ご一読ください ☞

英語で学士を取れる日本の大学

Studying in Japan